



高水 永雄 議員 (自民新国会)

更なる学力向上策を問う

教育長 学習活動の質的転換を図る

質問 町では、次代を担う児童・生徒に将来生きていく源の一つである学力の向上を願ひ、小学校に学習サポートを配置し、小学6年生・中学生を対象に、確かな学力の定着を図るため、フューチャースクールも実施している。しかし、学力に大きな向上が表れていない。そこで、次の点を



第二中学校で行われたフューチャースクールの様子

教育長に伺う。
問① 施策の導入にあたりどのような課題が確認されたか。
教育長 全国学力・学習状況調査の質問紙調査から、瑞穂の子ども達は自宅での学習時間が短く、スマートフォンなどの使用時間が長いことがわかり、その改善が課題となった。
問② 現状をどのように認識しているか。
教育長 「ストップ22

や「フューチャースクール」の実施で子どもたちの学習時間が以前と比べて増えてきた。
問③ 今後の展開はどのように考えているか。
教育長 学習サポートや教育支援補助員の配置など人的支援の充実を引き続き進める。また、学習活動の質的転換を図り、思考力・判断力・表現力を身につけさせ、学力向上にも取り組んでいく。

議員との対話集会

「みずほ まちなか会議」

を開催しました!

参加いただきました皆様
ありがとうございました。

11月18日長岡コミュニティセンターにおいて厚生文教委員会が、11月25日元狭山コミュニティセンターにおいて総務産業建設委員会が、「みずほ まちなか会議」を開催しました。

多くの方が参加され、それぞれの会場でいくつかのグループに分かれ、テーマについて、ワークショップ形式で意見交換を行いました。

今後議会として、より良いまちづくりに向け、議論を深めてまいります。



11月18日開催



11月25日開催



下野 義子 議員 (公明党)

障がい者支援の更なる取り組みを

町長 障害に応じたサービスの提供や相談業務の充実をしていく

質問 町は障がい者支援の啓発やバリアフリーの推進などに取り組んでいるが、更に進めるべきと考える。12月3日からの障害者週間を活用し、教育や啓発イベント、障害平等研究 (DET) の実施。点へ音声信号の設置の推進などについて町長の所見を伺う。
町長 啓発については、まず職員の認識が必要と考えられており、新人研修でも実施している。聴覚障がい者支援についてはICTの発展により先進的な事例があることは承知しているが、高額となるため、現時点での導入は考えていない。災害時の対応ではヘルプカードの普及を進めたい。介護者や保護者支援については障害に応じたサービスの提供や相談サ



町で配布しているヘルプカード

こんな質問もありました
産後ケア事業の取り組みを
町長 国のガイドラインに基づき、産後ケア事業の実施に向け準備を進めていく。



齋藤 成宏 議員 (民進党)

災害時協力協定の拡充と市町村間の相互応援の推進を

町長 応援体制の拡充に取り組んでいく



日常的な町内の幹線道路での渋滞の様子

質問 近年、多くの市町村では各種団体との災害時協力協定の締結、市町村間の相互応援の推進に取り組んでいる。これまでも様々な提案を行ってきたが、今後とも住民のニーズの変化に応じた町の対応を求める。町長に次のことを問う。
問① 災害時に各種施設駐車場等での車中泊者の受け入れについて、町長 車中泊などがあり方については、現在都において基本的な対応策を整理・検討する動きがあるため、その動向を注視していく。
問② 圏央道・国道16号・青梅街道等の沿線市町村との相互応援に

最も必要となる。今後都道が交差する圏域で、広域大規模災害が発生した際にどの市町村が、どの程度機能するのかも含めて、連絡調整が

聴覚障がい者などへの行政サービスとして会話支援アプリや専用タブレットの導入、災害時に支援を受け易くする防災ベストなどの配布、介護者や保護者支援、交通量の多い交差点へ音声信号

ビスの充実をしていきたい。音声式信号については、以前より福生警察署と協議を進めているが実現していない。引き続き必要性を訴えていく。